(別添3)

五霞町校務DX計画

【現状】

五霞町では、令和4年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、教育委員会の指導主事へのGIGA端末の整備や押印・FAXでのやり取りの見直し、校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃、クラウド環境を活用した校務DXの推進、次世代の校務システム導入に向けた検討などが一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) 教育委員会の指導主事へのGIGA端末の整備

現在、教育委員会事務所にWi-Fi環境がなく、GIGA端末が利用できないため指導主事への端末整備が行われていない。そのため、学校で実際に使用している画面等が把握できず、問い合わせや要望について細やかな対応が難しい。

(2) 押印・FAXでのやり取りの見直し

教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生している。

また、業者とのやり取り等FAXでのやり取りが一部残っている。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業

統合型校務システムを導入しているが、授業ではタブレットを使用しているため、一部手入力作業が発生している。

(4) クラウド環境を活用した校務DXの推進、次世代の校務システム導入に向けた検討

クラウド環境を活用した校務DXの推進については、令和5年度に校務システムを導入したばかりであり、十分に推進できていない。次世代の校務システム導入についても町単独では予算面、人員面でも難しい。

【取組方針】

現状と課題から五霞町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) 教育委員会の指導主事へのGIGA端末の整備

庁舎建て替え時にWi-Fi環境を整備し、指導主事への端末整備、活用を推進していく。端末整備が行われれば、授業等学校でのより効果的、具体的な端末利用について、検討助言が可能となる。

(2) 押印・FAXでのやり取りの見直し

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。FAXでのやり取りについては、メールでのやり取りにする等見直す方法を協議する。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業

教職員用端末の一台化を目指し、整備を推進していく。

(4) クラウド環境を活用した校務DXの推進、次世代の校務システム導入に向けた検討

茨城県での校務システム共同調達・共同利用の推進が打ち出され、校務支援システムのクラウド化、校内ネットワークの一元化、教員の端末の一台化が方針とされた。五霞町としても更新時期である令和10年度からの共同利用開始を検討していく。